
回想日記

九条 洸実

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

回想日記

【Nコード】

N2982M

【作者名】

九条 洸実

【あらすじ】

私が彼と付き合い始めて、一ヶ月。

日記を開くと、思い出が花開いた。

告白@彼女

告白@彼女

私たちが付き合い始めて、もうすぐひと月が経つ。時間が過ぎるのって、早い。

あの時、私はどうかしてたんだろうな。酔ってたのかも。でなきゃあんな事しないし、出来ないし。それほど、気が変になるほど好きだったことかな。だとしたらどっちみち重傷なんだけど・・・

七月十八日 曇り、後雨。

今日、初めて、告白した。すっつつつつつこい嬉しい！返事もいい返事だった！こんなに嬉しい事があってもいいんだろっか？

そのときは、ホントに何にも考えられなくて、真っ白い世界に彼だけがぼんやりと浮かんだような、そんな、そんな感じ！

もう、もう、もう！ ああああゝ！ 私もうだめかも！ とけちゃいそう！顔が熱いよー！

告白の言葉！『あなた、だいきらい』・・・

きゃー！ しぬうゝ！ はずかしゝ！

うふふ、幸せにひたって寝るぞ！

いつだって、目線はどこかに浮いてる。

特に何もないのに左やや上に顔をそむけて。

ほら、今も。

私の事なんて見てもいない。いないのと一緒になんだね、きっと。

話しかけても笑いもしない。

手にした本から目を上げもしない。

私の話はそんなにつまらない？

ねえ、聞いている？

答えはいつも、『きいてるよ。』

椅子に横向きに腰かけて、足を組み替える。

手にした本から目を上げて、窓から外を見渡してる。

・・・早朝の教室。

おはよう、に対する返事はいつも『うん』

ねえ聞いて、こないだの模試悪くてね。

久々にミサに抜かされたんだ。

笑って、平均六十点くらいだったんだ・・・笑えるでしょ？

・・・ねえ、聞いている？

『きいてるよ。』

・・・聞いてないくせに。
ばかみたい。

私の中はあなたでいっぱいなのに。
あなたの中に、私はいない。

『・・・あの日は雨だったしな。しかもあんまり寝てなかったらろ？頭痛薬も飲んだし。ま、次、しくじるなよな。』

え？

知ってるの？

聞いてたの？

・・・気づいてたの？

雨の日は血圧が下がっていつも貧血気味な事。

あの日眠れなかったこと。

頭痛薬飲んだこと。

見てないようで、ちゃんと見てる。

気のないふりして、気をかけてくれる。

聞いてないようで、全部覚えてる。

なんか、腹立つな。

ばかにしてるみたいで。

だから。

仕返し。

背中にまわって。静かに。

静かに。

抱きしめて。

『あなた、大キライ』

・・・ほら。

なんでもないふりして
そんなの無駄だよ。

だって、ほら。

鼓動の音は、隠せない。

告白@彼女（後書き）

読んで頂き、誠にありがとうございました。
気に入って頂けたようでしたら@彼もよろしく願います。

爆睡@彼女

爆睡@彼女

告白の翌日、確か結局眠れなくて、それでもなんとか登校して。ほんと、やられてるよなって思う。あの頃の私は。

今は違っちゃって言われるとそうでもない気がするし、また一ヶ月も経てば（あの頃はどうかしてたんだなー）って思うんだろうな。

結局、放課後に机で寝ちゃったという・・・

ダメ女になってますよ、いや、なってますたよ、かな？

七月十九日 晴れ

眠い、ねーむーいー

ああもうねる

ねる

翌日追記分ー！

うわあ、いや・・・日記にも何にもなってないよ！？

まあ、気を取り直して・・・あ、時間が！この電車のがしたら彼と話す時間がなくなる！

えと、夜ドキドキして寝不足で寝ました！

・・・彼の腕で・・・あー！！

行ってきます！

眠たい。

とっても眠たい。

彼との会話も耳に入らないくらい。

『おい、どうした？』

『ちよつと、ねてなくて』

床に座り込んで、彼も少しねむたそう。

いつもと違うのは、まっすぐにこちらを見ている事。

それだけで、揺らぎない自信になる。

こんなに幸せでいいのだろうか？

『始業まで、一時間半……』

『んー……？』

『少し寝なよ』

『んー』

あ、彼の腕の中、暖かそう。

あそこにしよう。

そのまま私は、眠りについた。

『………てるぞー！』

てるぞ？ そっか。てるぞか。そっかそっか。

『時間迫ってるぞー！』

それはまずいどうしようえっととりあえずえっとまずだからつま

りえつと

『起きたか？・・・起きろ！』

『あー、起きた。』

『大丈夫か？』

『うん、起きた。』

『起きてねえよ。覚醒しろー』

周りを見渡すと、そこは。

屋上に続く階段の、一番上。

そう気がついたのは、三十秒後。

『あれ、ここどこ？』

『授業始まるぞ。』

『あ、ん』

『起きろ。』

起きろと言われても。

暖かくて、眠い。

寝汗がひどいけど、不思議と不快じゃなく。

・・・暖かい？

自分が彼の腕の中にいるという、事実。
覚醒の、瞬間。

なんでここに？

いつ寝てしまったの？

訊きたい事は、山とある。

けど。

けど。

『おはよう、ありがとう。』

それを伝えて、教室に向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2982m/>

回想日記

2010年10月14日13時57分発行